

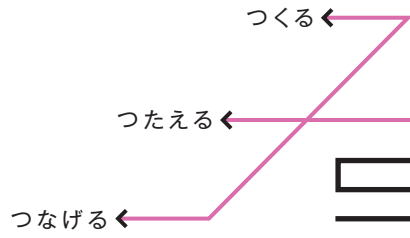


個の力を引き出す。

名古屋市立大学 広報誌

創 innovation 新

Courage to Challenge



S O - S H I N

春 号

2013

SPRING

VOL. 09



Photo Index

2	
3	1
4	5

- ① 滝子(山の畑)キャンパスの桜
- ②③ 入学式の様子
- ④ 新入生のサポートをするオリターのメンバー
- ⑤ 新入生稲武合宿(オリターと一緒に)



目次

学長メッセージ／新任・再任者紹介／平成25年度 新執行体制／事務局組織改編について……P1・2 平成25年度 計画・予算／教員著書・発行物紹介……P3・4
トピックス／国際交流……P5 受賞／東日本大震災関連情報……P6 イベントカレンダー／寄附顕彰／工事情報／カラダのことを考えよう……P7



「Challenging Year(挑戦の年)とは」



理事長・学長 戸 莉 創

Hajime Togari

本学は、平成25年度を「Challenging Year(新しい事業への挑戦の年)」と位置づけています。昨今、本学の教職員、学生の皆さんの活躍には目を見張るものがございます。昨年24年度一年間でメディア(新聞、テレビ等)には600回以上取り上げられ、嬉し

いことに「最近の名市大は凄いですね」との声も聞かれます。そのような中、本年度も全ての学部・研究科で、新しい事業が続々と計画されていますが、なかでも、「名古屋市立大学22世紀研究所の創設」と「名古屋市立大学交流会の設立」は特筆すべきもので、他に類をみない、ユニークにして期待度の高い事業です。

「名古屋市立大学22世紀研究所」は、今後50年、100年先を見据えて、あるべき未来社会の姿を、国内のみならず世界に向けて発信する機関です。今川正良理事を所長、守誠特任教授を副所長として、各界より超一流の方々を特任教授にお迎えして、講演会の開催、Web上で英文での提言などの発信を予定しています。ご期待下さい。

「名古屋市立大学交流会」は、名古屋市立大学に少しでもゆかりのある方々で構成す

る新しい組織で、まずは本学の学部および大学院を今年卒業された皆さん、今年退職された教職員の皆さん、さらにはまだ一部ではありますが、各学部・大学院の同窓会の皆さん、保育短期大学および女子短期大学の同窓会の皆さんにもご案内致しました。今後は、過去に一時でも本学に籍を置かれた皆さん、さらには有形無形に本学と関係を持たれた、あるいは現在も持たれている皆さんに広く入会していただく予定です。入会されました方々には、特別な講演会のご案内の他、季刊「創新」を介しまして、最新の大学の情報を提供します。そのことで、本学のゆるぎない発展に惜しみのない応援をいただけるものと考えています。

これらの新しい取り組みを中心に、本年度も皆さんと共に挑戦してまいりたいと思います。

CLICK!

ウェブサイト「名市大の矜持—学長室から」も是非ご覧ください。▶▶ <http://www.nagoya-cu.ac.jp/1759.htm>

■ 新任・再任者紹介

再任



理事(病院)・附属病院長
城 卓志

この度、昨年度に引き続き病院長を拝命いたしました城 卓志です。市大病院は、平成18年に独立行政法人化して以来、大学病院としての理想を追求しつつも、自立した経営を目指してきました。皆様方のご協力により病院診療業績自体は、現在でも右肩上がりとなっておりますが、昨年一年で明らかになってきた問題もあり、今後はこれらの解決に全力で取り組みたいと考えております。今年度も皆様のご尽力賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

新任



看護学部長
山本 喜通

わが国では毎年約5万人の看護師が誕生しますが、看護師不足はなかなか解消されません。ポストも増えたのですが、やはり離職率の高さが最大の原因でしょう。看護師を育てるのに必要な経費を考えると、効率の悪いシステムです。離職率問題や少子化対策として、ワーク・ライフ・バランスの重要性が叫ばれています。世の中の仕組みを変えるにはまず足元からというわけで、看護学部／看護学研究科でのワーク・ライフ・バランスについて考え、それを次の世代である学生達に伝えたいと思います。



医学研究科長
浅井 清文

この度、医学研究科長・医学部長を拝命いたしました浅井清文です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。医学部では、教育内容に関して、国際標準に準拠した認証評価を受けることが必須となっております。一方で、新専門医制度の発足により、専門医を取得するための後期研修と大学院博士課程の両立をどのように図っていくかも大きな課題です。着実に一歩ずつ前に進めていきたいと思っておりますので、皆様のご理解とご協力を宜しく願い申し上げます。



薬学研究科長
平嶋 尚英

この度、薬学研究科長・学部長を拝命いたしました平嶋です。昨年新しい薬学教育制度の第1期生が社会に行きました。おかげ様で高い評価をいただき、新生薬学部として無事離陸できたと思っておりますが、薬学部に対する社会のニーズと期待は益々高まっており、さらなる高みを目指して速度を上げて参りたいと思っております。今年度からは名古屋工業大学と共同の大学院「共同ナノメディン科学専攻」もスタートいたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。



システム自然科学研究科長
能登原 盛弘

システム自然科学研究科長を拝命いたしました能登原盛弘です。本研究科設置から13年が経過しましたが、一般学生、社会人、外国人留学生を広く受け入れ、これまでに200名近い修了生を社会に送り出してきました。物理、化学、生物、数学・情報、健康科学の様々な分野の教員が学問の垣根を越えた自然科学の研究を通じて、学生に先端分野の面白さと奥深さを伝えるとともに、社会に貢献できるアクティビティの高い人材の育成に努力して行きたいと考えています。宜しく願い申し上げます。

平成25年度
新執行体制について



事務局組織の改編について 事務局組織の改編に伴い、以下のように所管業務が変更されました。

業務内容	旧	新
1 放射線安全委員会、遺伝子組換え実験等安全委員会、バイオセーフティ委員会及び動物実験委員会に関すること	総務課 給与係	学術課 学術企画係
2 知的財産の管理に関すること	学術課 学術企画係	学術課 産学官連携係
3 産学官連携に関すること	学術課 学術企画係	学術課 産学官連携係
4 地域貢献に関すること	学術課 広報交流推進係	学術課 産学官連携係
5 大学間交流に関すること	学術課 広報交流推進係	学術課 産学官連携係
6 国際交流に関すること	学術課 広報交流推進係	学生課 国際交流係
7 広報に関すること	学術課 広報交流推進係	入試広報課 広報係
8 入学者の選抜に関すること	学生課 学生係	入試広報課 入試係
9 留学生に関すること	学生課 学生支援係	学生課 国際交流係

主な計画



- 学生が履修計画を設定する上で参考となるよう、すべての教養教育科目を第二期中期目標に掲げる「持続可能な共生社会」等の課題を学ぶ関連科目群として整理・設定し、学生に提示

- 高校での未履修科目及び入学試験での非選択科目についてリメディアル（補習）教育を実施

- 日本語コミュニケーション能力の向上に資する科目を開講

- 英語力調査（TOEIC IP試験）結果を応用英語の習熟度別クラス編成に活用

- 【医学部】医学教育機関認証制度*に準拠した新カリキュラムを平成28年度の実施に向けて策定

*平成35年のECFMG新制度に対応すべく、導入が予定されている国際標準の医学部認証制度であり、平成28年度までに全ての参加表明校が認証完了予定

- 【経済学部】日本税理士会連合会の寄附講座を受け入れ、実務経験者による実践的教育を拡充

- 【人文社会学部】ESD（持続可能な地域社会と地球社会をつくる教育）を軸に再編成した新たな学部教育体制をスタート

- 【芸術工学部・芸術工学研究科】社会情勢に即した教育・研究を実施するために情報・通信工学分野の教員を補充し、再編後の3学科・3領域体制の教育研究指導、カリキュラムを実施

- 【薬学研究科】名古屋工業大学との共同大学院ナノメディシン科学専攻を設置

- 【看護学研究科】専門看護師教育コース精神看護学分野を認定申請

- 【システム自然科学研究科】教育の幅を広げ指導体制の柔軟性を高めるため、研究領域に近い複数の教員で構成するユニットを増やし、大学院生を指導

- 研究授業（教員相互の授業参観）を実施



- 医・薬・看の共同研究などの学内外・国内外との共同研究を実施するとともに、「最先端・次世代研究開発支援プロジェクト」および「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」を継続的に実施

- 【薬学研究科】文部科学省及び厚生労働省に採択された事業を中心に創薬生命科学、臨床薬学、レギュラトリーサイエンス*及び医薬品の安全性評価についての研究を推進

*医薬品の品質や有効性・安全性などを予測、評価、判断するための科学

- 【システム自然科学研究科】生物多様性研究センターにおいてDNAバーコード用試料の収集と分析を引き続き実施



- 地域貢献を全学的に推進していくセンターの設立準備を実施

- 教員のまちづくり活動等を把握、データベース化し、地域社会のニーズとのマッチングを推進

- 大学の国際化を一層推進するため「国際交流センター」を設置し、留学希望者への支援、交換留学生との交流等を実施



- 年々増加するがん患者に対応するため、東棟の放射線治療の診療枠を拡大

- MFICU（母体・胎児集中治療管理室）を設置

- 新たな基準での病院機能評価を受審



- 事務局組織を改編し、教育研究支援体制をはじめとする職員体制を整備

- 改正後の教員業績評価制度の定着を図り、全学的に統一した方法により処遇等へ反映

- 卒業生等を構成員とする「名古屋市立大学交流会」を通じて、大学の情報提供等の事業を行い、会員との連携を推進

- 田辺通キャンパスの薬学部校舎等の改築工事において既存の本館、厚生会館及び総合情報センター田辺通分館の取壊し工事及び駐車場整備工事を完了するとともに、滝子キャンパス、北千種キャンパスの耐震改修工事を完了

- 研究不正の再発防止に向け、説明会等を実施

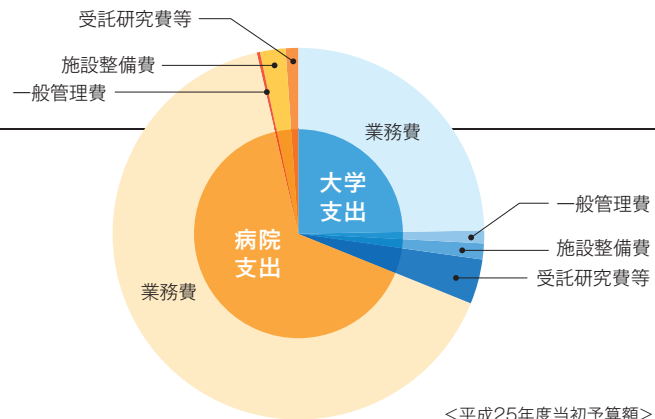
平成25年度 予算

昨年度予算との比較

歳入

(単位:百万円)

科目	平成25年度 当初予算額	平成24年度 当初予算額	比較
大学収入	10,991	11,698	△707
病院収入	24,166	22,591	1,575
合計	35,157	34,289	868



歳出

(単位:百万円)

科目	平成25年度 当初予算額	平成24年度 当初予算額	比較	平成25年度の財源内訳				
				運営費交付金	自己収入	施設整備費補助金	受託研究収入等	目的積立金取崩等
大学支出	10,991	11,698	△707	6,191	2,807	471	1,399	123
業務費	8,746	8,483	263	6,191	2,437	—	—	118
一般管理費	375	424	△49	—	370	—	—	5
施設整備費	471	1,391	△920	—	—	471	—	—
受託研究費等	1,399	1,400	△1	—	—	—	1,399	—
病院支出	24,166	22,591	1,575	310	23,136	—	354	366
業務費	22,909	22,083	826	310	22,599	—	—	—
一般管理費	116	105	11	—	116	—	—	—
施設整備費	787	170	617	—	421	—	—	366
受託研究費等	354	233	121	—	—	—	354	—
合計	35,157	34,289	868	6,501	25,943	471	1,753	489

用語の説明

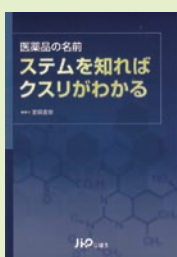
目的積立金とは?…法人化以降に毎年度の決算で計上してきた剰余金のうち、法人が努力して獲得したものと名古屋市が認定した額を積み立てたもの。法人が予め計画した目的の経費に充当することができることから、目的積立金といいます。



最近発行された教員の
著書・発行物等を紹介します

教職員の皆様へ

本を出版された方は、今後の誌面で紹介させていただきますので、事務局入試広報課までご一報ください。



出版社:じほう
2013年2月

医薬品の名前 ステムを知ればクスリがわかる

薬学研究科 特任教授 宮田 直樹(編著)

本書は、日本で承認販売されている医薬品の一般名に使われている240のステムを取り上げ、医薬品を分類し、ステムの定義、医薬品の名前、化学構造、由来、薬理作用や効能、標的とする生体分子などを紹介しています。医薬品の名前に含まれるステムの意味を知り、医薬品についての理解を深めるために活用していただきたい1冊です。



出版社:成文堂
2013年3月

日本植民地・占領下の少年犯罪 —台湾を中心に—

人間文化研究科 教授 山田 美香

統治者の論理のみが強調された植民地支配のもと、教育政策ほど重視されなかった少年犯罪対策。しかし戦時中は、外地でも犯罪少年の更生は兵士として御国に奉げることにあった…。本書は、戦前日本植民地・占領下の台湾、香港そして中国(満州国)における少年福祉・教育が、日本の少年司法・少年福祉の歴史とどのようにリンクしたのかを考えるものであり、歴史における少年福祉・教育について考えた書です。



TOPICS

「名古屋市立大学交流会」を発足

2012年10月27日(土)、各学部同窓会の代表者と本学の役員とで、大学と同窓会との連携・協力に向けた意見交換会を実施しました。本学が創設されて以来の顔合わせとなりましたが、皆様には活発なご議論を頂き、大変有意義な会となりました。

その後協議を重ねました結果、この度、各同窓会に加えて全学レベルの組織として「名古屋市立大学交流会」を発足いたしました。本学が総合大学としてのメリットを最大限に生かし、社会と連携して活動をするため、学部等を越えた交流・連携を促進し、会員相互の親睦を図ってまいりたいと考えております。

卒業生・修了生、旧教職員以外にも、本学にゆかりのある方が対象となります。教職員の皆様でご興味のある方は是非下記までご連絡をお待ちしております。

学長補佐(同窓会) 野中 壽子

名古屋市立大学交流会事務局 TEL:853-8003 E-mail:koryukai@sec.nagoya-cu.ac.jp



▲第一回 意見交換会の様子

「22世紀研究所」を本学に創設

21世紀の現代において、国内外で様々な情勢に直面しており、その中であって日本に固有の価値理念や特徴的な政策があります。また、各国の国際情勢がどのように持続変化し、いかなる世界となるのか、人類はそれにどのように対応すべきなのかが問われています。

こうした中、50年100年先を見据えることができるような様々な研究を行い、その成果を発信するため、2013年4月1日、「名古屋市立大学22世紀研究所」を設立いたしました。世界でも活躍してきた経験豊富なエコノミスト等を特任教授に迎え、それぞれの専門分野の識見を生かしながら、人類社会共通の課題解決の達成に寄与してゆきます。

名古屋市立大学22世紀研究所 所長 今川 正良

■研究所員一覧

所長/今川正良 副所長・特任教授/守誠

研究員・特任教授/青木洋、井出孫六、岡本博之、丁偉儒、

中川十郎、兵藤長雄 (50音順)



▲訓示の様子

「さくら講堂」に名称をリニューアル

2013年5月、桜山キャンパス川澄分館エレベーター工事の完了に伴い、ホール名称を「さくら講堂」にリニューアルいたしました。内装も一新し、使いやすく生まれ変わったホールをぜひご活用ください。

また、本学の歴史が記された年表パネルをさくら講堂のロビーと、田辺通キャンパスの薬友会館に設置しました。今後順次キャンパス内に掲示する予定ですので、ご覧ください。



▲エレベーター外観



▲年表パネル

卒業生インタビューをウェブサイト公開



本学ウェブサイトのブランディングコンテンツ「見る・聞く・知る」に卒業生インタビューを公開しました。本学で学んだ卒業生の活躍をぜひご覧ください。

URL▶▶▶ <http://www.nagoya-cu.ac.jp/branding/interview/graduate/>

国際交流

瀋陽医学院(瀋陽市)と共同で「中日尿路結石研究センター」を設立

2013年3月5日、中国の協定校の一つである瀋陽医学院(瀋陽市)と本学は、両大学の教育・研究上の協力と学術交流の推進を図るため、共同で中日尿路結石研究センターを設立いたしました。

尿路結石の患者数は、中国、日本をはじめ先進国で急増しており、尿路結石の病態を解明し予防法を確立することは、世界的な課題になっています。本センターの設立で、私たちの日中共同研究がさらに進むことを願います。



受賞

※受賞期間：2013年2月1日～2013年4月30日 ※敬称略、各研究科ごと・受賞日順に表示

■医学研究科



●日本画像医学会
第32回 日本画像医学会 会長賞
整形外科 病院講師
林 克洋



●10th International Congress of
Andrology
Young Andrologist Award 2013
●一般財団法人 鈴木泌尿器医学振興財団
平成24年度 鈴木泌尿器医学賞
●一般社団法人 日本泌尿器科学会
第101回 日本泌尿器科学会総会 総会賞
腎・泌尿器科学分野 講師
水野 健太郎



●一般社団法人 日本集中治療医学会
第40回 学術集会 優秀演題
麻酔・危機管理医学分野 助教
加古 英介



●一般社団法人 日本集中治療医学会
第40回 学術集会 優秀演題
麻酔・危機管理医学分野 臨床研究医
仙頭 佳起



●一般社団法人 日本集中治療医学会
第40回 学術集会 優秀演題
麻酔・危機管理医学分野 臨床研究医
田村 哲也



●一般社団法人 日本集中治療医学会
第40回 学術集会 優秀演題
麻酔・危機管理医学分野
シニアレジデント
西澤 義之



●一般社団法人 日本泌尿器科学会
第259回 東海地方会 優秀発表賞
腎・泌尿器科学分野 臨床研究医
岩月 正一郎



●一般社団法人 日本泌尿器科学会
第20回 日本泌尿器科学会
学会賞基礎部門
腎・泌尿器科学分野 臨床研究医
濱本 周造

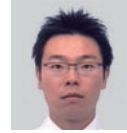


●一般社団法人 日本泌尿器科学会
第101回 日本泌尿器科学会総会 総会賞
腎・泌尿器科学分野 臨床研究医
田口 和己



●一般社団法人 日本泌尿器科学会
第7回 ヤングリサーチグラント賞
腎・泌尿器科学分野 臨床研究医
内木 拓

■薬学研究科



●日本糖質学会
第15回 日本糖質学会 ポスター賞
生命分子構造学分野 助教
矢木 宏和



本学は「名古屋市女性の活躍推進企業認定・表彰制度」優秀賞を獲得しました

本学は、平成24年度「名古屋市女性の活躍推進企業認定・表彰制度」において、優秀賞を獲得しました。また女性の活躍推進企業認定も受けました。認定期間は、2013年1月30日から2016年3月31日までです。優秀賞を獲得したことにより、本学の女性の活躍推進の活動が市のホームページで広く公表され、名古屋市主催の就職セミナー等で紹介される予定です。2013年1月30日に名古屋市公館で表彰式が行われ、河村たかし市長より表彰状と記念品をいただきました。

春の叙勲

平成25年の春は、1名の方が叙勲を受章されました。

受章者：佐々木 實
(名古屋市立大学名誉教授、元医学部長)

受章日：平成25年4月29日

叙 勲：瑞宝中綬章

名誉教授称号授与

医学研究科 横井基夫 教授、岡田則子 教授、木村玄次郎 元教授、
薬学研究科 小野崇菊夫 教授、小野秀樹 教授、宮田直樹 教授、
経済学研究所 星野優太 教授、
人間文化研究科 有賀克明 教授、宮田 學 教授

の各位に、2013年4月1日付けで名誉教授の称号が授与されました。それぞれの専門分野において研究・教育に尽力される一方、本学の発展及び管理運営に大きく貢献された各氏に、多年にわたるご尽力を感謝するとともに、今後のご活躍をお祈りします。



▲定年退職者・名誉教授称号授与者 記念撮影 (2013年3月29日)

東日本大震災関連情報

本学では、東日本大震災への復興支援を引き続き行ってまいります。今後も学内一丸となって出来る限りの支援を行ってまいりますので、皆様ご協力のほどよろしく申し上げます。

「厚生労働大臣感謝状」が授与されました

平成25年3月、厚生労働省が、東日本大震災の被災者支援活動を行なった組織に対して感謝状を授与することになり、表彰団体として附属病院が選定されました。

陸前高田市の子ども達を名古屋市へ招待するプロジェクト 感謝状贈呈式

陸前高田市の中学生を名古屋市へ招待したプロジェクトに参画し、就労体験等による受入れや、中学生に随行した附属病院の取組みをご評価いただき、2013年2月20日、河村たかし市長より感謝状をいただきました。

平岡副病院長・看護部長(写真右)と河村市長▶



看護学部 陸前高田市特別枠に2名が入学

本学では、陸前高田市への「丸ごと支援」を実施する名古屋市から協力要請を受け、看護学部の入試において陸前高田市特別枠を設置しています。4月5日(金)、本学の入学式が名古屋国際会議場で行われ、陸前高田市より新生2名が看護学部に入學しました。

E V E N T C A L E N D A R

イベント名	主催者	日時・場所	対象者	申込方法
第60回 Human & Social サイエンスカフェ 「日本人英語に見られる誤り—その傾向と対策」 講師：人間文化研究科 宮田学名誉教授 (2月19日の回のアンコール講座です) 参加費：1,000円(茶菓代・資料代)	人間文化 研究所	2013年6月15日(土) 15:00~17:00 サクラサイドテラス (桜山キャンパス西棟1階)	学外・学内問わず、 どなたでもご参加に なれます。 先着約30名(要申込)。	電話、FAX、Eメールのいずれかでお名前、ご連絡先、参加希望講座名をお知らせください。 TEL-FAX 872-3536 Eメール institute@hum.nagoya-cu.ac.jp
第3回 炎症性腸疾患患者さんのための 医療講演会	附属病院 消化器内科	2013年6月16日(日) 13:00~14:30 附属病院4階第1会議室	炎症性腸疾患患者さんと その家族(現在の受診施設は問いません)	不要 (当日直接会場にお越しください)
第77回 サイエンスカフェ名古屋 「ネット社会の落とし穴 ~大丈夫?あなたのプライバシー~」 講師：システム自然科学研究科 宮原一弘講師 参加費：600円 (コーヒー/紅茶/ジュース+ケーキ)	システム 自然科学 研究科	2013年6月21日(金) 18:00~20:00 セブンスカフェ (ナディアパーク7階)	学外・学内問わず、 どなたでもご参加に なれます。 先着約40名(要申込)。	お名前とご住所、ご希望の回(日付)を記入の上、いずれかの方法で申込みください。 TEL 872-5802(山の畑事務室) FAX 872-1531 Eメール scicafe@nsc.nagoya-cu.ac.jp

詳細はホームページをご覧ください。▶▶▶ <http://www.nagoya-cu.ac.jp/event/>

寄附顕彰

大学振興基金へのご寄附ありがとうございました。

林 邦夫 様 松村 志津子 様 株式会社 八木澤商店 様
陸前高田市の子供達を名古屋市へ招待する
プロジェクト実行委員会 様

(五十音順。2013年1月1日から3月31日まで
にご寄附いただき、公表に同意された方。)

感謝状贈呈式が行われました

2013年3月15日(金)、松村志津子様より、高額のご寄附をいただきました。そのご厚意に対し、3月28日(木)桜山キャンパスにて、戸川理事長より感謝状が贈呈されました。


 工事情報

本学では全キャンパスにおいて耐震改修工事を終え、耐震化率100%となりました。

今後の工事情報

キャンパス	工事場所・内容	期間(予定)
滝子	温室改修工事	2013年7月-8月
	3号館職員トイレ改修工事	2013年8月-9月末
田辺通	駐車場整備	工事中-2013年7月末

お詫びと訂正

2013年2月発行「創新冬号」に、誤りがありましたので、お詫びの上、下記の通り訂正させていただきます。

- P1学長メッセージ 2段目下から4行目
(誤)昭和45年(1970年)の太平洋戦争 (正)昭和20年(1945年)の太平洋戦争
- P3下段 「経済学研究科シンポジウム 21世紀の名古屋市を展望する」 下から3行目
(誤)近藤邦夫氏 (正)近藤邦治氏

◎ご意見・情報募集中!

学内広報誌「創新 春号」をご覧になった感想・ご意見等を、ぜひ事務局入試広報課までお知らせください。次回以降の広報誌作成の参考にさせていただきます。また、取材を受けたとき、プレスリリースしたいときなど、広報に関する報告・相談には「広報ホットライン」をご活用ください。

教職員限定サイト▶▶▶ <http://intra.nagoya-cu.ac.jp/intra/hotline>



食中毒に気をつけましょう

産業医 上島 通浩

気温も上がるこれからのシーズン、微生物はますます増殖しやすくなります。この機会に食中毒の予防について復習しましょう。

①カンピロバクター

鶏、ペット等の腸内に存在し、特に鶏から多く検出されます。少量の菌でも中腸を発症し、主な症状は腹痛、下痢、発熱、嘔吐です。潜伏期間は2~7日と長めです。肉を生あるいは半生で食べることは避け、十分に加熱調理することが重要です。生焼けの焼き鳥等には明らかにリスクがあります。

②腸管出血性大腸菌(O157、O111等)

焼き肉チェーン店の生肉を原因とする食中毒発生は記憶に新しいところです。溶血性尿毒症症候群など死亡原因にもなる重い病気を引き起こします。加熱調理で防げます。牛の「レバ刺し」は食べてはいけません。子どもやお年寄りには特に気をつけてあげて下さい。

③ノロウイルス

冬の食中毒の代表的な原因とされていますが、5、6月にも発生しています。主な症状は嘔吐、腹痛、下痢、発熱で、潜伏期間は24~48時間です。十分な加熱で予防できますが、感染力が強く手洗いの励行等注意が必要です。

④ボツリヌス菌

中枢神経系に作用し麻痺が生じます。菌芽胞が口から入ると乳児の腸内では菌が増殖し「乳児ボツリヌス症」の原因となります。蜂蜜の中に含まれることがあるので、1歳未満の乳児には蜂蜜を与えないでください。

(気をつけるべき食中毒は①~④以外にもあります)



敷地内・周辺道路は禁煙です

キャンパス周辺の路上においては、本学関係者の喫煙が後を絶たず、周辺住民の方々に多大なご迷惑をかけています。もしそのような状況を見かけたらお互いに声をかけあい、禁煙の徹底にご協力ください。

発行/平成25年5月

事務局入試広報課

TEL : 052-853-8328 FAX : 052-841-7428

E-mail : ncu_public@sec.nagoya-cu.ac.jp

名古屋市立大学ウェブサイト

▶▶▶ <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>